

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
		高齢者が健康で安心して暮らし続けられる街づくり 地域コミュニティの再生	裾野市
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	ECSB! ～広がる輪、繋がる心～		

(注1) 地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	マンボー		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 ドロップダウン選択 →		2.学生
チームメンバー数(公開)	4 名		
代表者(公開)	岡村悠加		
メンバー(公開)	植松真悠、岩田悠、大庭拓真		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名(メンバー一覧ページを参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について:
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 →

OK

<チームメンバー名簿:メンバー一覧ページ>

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動（サービス）を行うのかを具体的に示してください。将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデアを求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。**2 ページ以内**でご記入ください。

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

＜解決したい課題のポイント＞

異世代の人々と交流をして繋がりを深める。

「高齢者が健康で安心して暮らせる」「地域コミュニティの再生」などの課題解決につながる。

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

（参考）よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感（使う人の立場になってみる）が大切です。

＜提案するアイデアの内容＞

高齢化が進んでいる中で地域コミュニティの活力を高めるための企画です。

私たちは、「地域との繋がりがありますか？」とアンケートを行ったところ、「ある」と回答した人が 60%、「ない」と回答した人が 40%という結果が得られました。多くの人が地域と繋がりを感ずる一方で、「なぜ地域と繋がりがあのか」と質問すると「学校の行事であるトークフォークダンス」や「学校の授業を通じた活動」など、主に学校内での取り組みによるものであることが分かりました。しかし、これらの活動は学校内に限定されており、地域と深く関わる機会が限られている現状です。そのため、学校を卒業すると地域との繋がりが薄れる可能性があります。そこで、異世代、特に高齢者との交流を深めるために、高校生が地域で開催されるイベントで異世代と一緒に楽しめるレクリエーションを企画し、そのブースを運営することで交流の場を提供します。

裾野高校の生徒が主体的に活動し地域との交流を深める取り組みを行います。地域で開催されるイベントでは、自治体の協力を得てブースを出展します。ブースの運営やレクリエーションの企画については、裾野高校の福祉介護系列と保育系列の生徒が協力しながら行います。この活動を通じて得られた異世代交流のノウハウは地域で一人暮らしをしている高齢者との交流にも活用できます。

地域のイベントが行われる際にレクリエーションを実施するほか、一人暮らしをしている高齢者との交流する機会として、公民館などの施設に集ってもらいレクリエーションを月の2回ほど行います。

裾野市内で行われる地域イベントの会場の他、地域の公民館でも行います。

自治体と連携して、必要な場所や協力体制を調整します。一人暮らしの高齢者に関する情報は、裾野市役所の総合福祉課に協力を得て適切に把握します。

高齢化が進む中で地域コミュニティの活力を高めるため、裾野高校が中心となり異世代の人々と交流を増やしていきます。

--

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

＜参考：以下のように理由を書いていきます＞

※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

1つ目の理由は、裾野高校には若者が多くいるのと専門的な内容を学んでいるからです。イベントをする際は人手が必要です。裾野高校には毎年新しい生徒が入学するため入学する生徒がいる限り人手に困ることはありません。また、裾野高校には、福祉介護系列と保育系列で専門的な内容を学んでいるので高齢者などに配慮した活動が可能になります。

2つ目の理由は、高齢化が進んでいるからです。高齢者の増加に伴い、一人暮らしの高齢者が増えており、孤立や孤独感が問題になっています。そのため、地域コミュニティの活力を高めることで、高齢者が孤立することなく、社会と繋がりを持ち、豊かな生活を送ることができます。

現在、裾野市は高齢化が進んでいます。なので、高齢者の孤立を防ぎ、異世代の交流を促進する有効な方法だからです。

裾野市は総人口 49,779 人高齢者人口 13,667 人で日本全国の平均値 20,318 人と中央値 7,998 人を比べると裾野市の高齢者人口は平均より 6,651 人少なくまた、中央値よりも 1.72 倍も高齢者人口が多いとわかります。さらに、高齢化率に注目すると、裾野市の高齢化率は約 27.4%であり、日本全国の平均高齢化率 28.4%に近い水準です。このことから、裾野市では全国的な高齢化の課題に加え、地域特有の高齢者支援やコミュニティの活性化が求められています。特に、一人暮らしの高齢者が地域とのつながりを持つことは、健康維持や孤立防止に重要な役割を果たします。

この背景から、裾野高校の生徒が中心となって高齢者と交流するイベントや地域活動を行うことで、異世代間の理解が深まり、地域全体の連帯感が高まることが期待されます。また、福祉介護や保育の専門知識を学んでいる生徒たちが積極的に参加することで、より質の高い支援活動が可能となり、裾野市の地域活性化に寄与することができると考えられるからです。

(3) アイデア実現までの流れ(公開)

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 実現の主体は裾野高校の生徒です。協力してもらう組織は、自治体と市役所を想定しています。

2. 地域のイベントに必要な道具は自治体から借用したり、自分たちで作ったりします。
当初の資金は、裾野市が実施しているパートナーシップ事業補助金 10 万円を充当します。

3. ■これまでの時間軸

- 5 月 裾野市の課題の学習
- 6 月 課題に対する仮説
- 7 月 ヒアリング内容検討
- 8 月 高齢者施設ヒアリング
- 9 月 ヒアリング内容検討
- 10 月 裾野市役所ヒアリング
- 11 月 高齢者施設に行き実施、まとめ

■これからの時間軸

- 2024 年度 地域イベントに向けて準備
- 2025 年度 地域イベント実施
- 2026 年度 一人暮らしの高齢者に合う実施